



Bridge Report システナ (2317)

 逸見 愛親 社長	会社名	株式会社 システナ	
	証券コード	2317	
	市場	東証1部	
	業種	情報・通信	
	社長	逸見 愛親	
	所在地	東京都港区海岸 1-2-20 汐留ビルディング 14階	
	事業内容	スマートフォン向けソフト開発・技術支援、金融機関・企業向けシステム開発、IT関連商品の企業向け販売を中心に、システムの運用・保守、クラウド型業務アプリの開発等も手掛ける	
決算月	3月		
HP	http://www.systema.co.jp/		

－ 株式情報 －

株価	発行済株式数(自己株式を控除)	時価総額	ROE(実)	売買単位	
777円	25,382,100株	19,722百万円	14.2%	100株	
DPS(予)	配当利回り(予)	EPS(予)	PER(予)	BPS(実)	PBR(実)
30.00円	3.9%	53.87円	14.4倍	502.00円	1.5倍

*株価は8/5終値。発行済株式数は直近四半期末の発行済株式数から自己株式を控除。ROE、BPSは前期末実績。

－ 連結業績推移 －

(単位:百万円、円)

決算期	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	EPS	配当
2011年3月(実)	39,176	2,579	2,661	2,957	9,692.34	2,600.00
2012年3月(実)	30,630	1,822	1,918	904	3,062.90	2,900.00
2013年3月(実)	31,662	2,244	2,292	1,203	4,404.00	3,000.00
2014年3月(実)	33,969	1,656	1,746	1,797	69.16	30.00
2015年3月(予)	35,000	2,200	2,217	1,369	53.87	30.00

*予想は会社予想。13年4月1日付けで1株を100株に分割。

システナの2015年3月期第1四半期決算について、ブリッジレポートにてご報告致します。

－ 目次 －

- [1. 会社概要](#)
- [2. 2015年3月期第1四半期決算](#)
- [3. 2015年3月期業績予想](#)
- [4. 今後の注目点](#)

今回のポイント

・「日本を代表する IT 企業となり、日本経済を底辺から支える！」との経営目標の下、事業の軸足を、携帯電話・スマートフォンの開発や評価から、スマートフォンを利用したサービスの検証やサービスそのものを作り出す事でユーザーを支援するビジネスヘシフトさせている。株主資本利益率及び売上高営業利益率の向上と安定した高配当により株主の期待に応えていく考え。

・15/3 期 1Q(4-6 月)は前年同期比 7.2%の増収、同 38.0%の経常増益。ネット関連の各種ソフトウェアやサービスの開発を中心に主力のソリューションデザイン事業の売上が増加。事業部間の連携強化が成果をあげクロスセル(cross-sell)が進み、金融・基盤システム事業、IT サービス事業、ソリューション営業事業の売上も増加した。上記 3 事業は収益性の改善も進み、営業利益増(同 43.6%増)の原動力となった。

・通期予想は前期比 3.0%の増収、同 27.0%の経常増益。Windows XP のサポート終了に伴う PC リプレース需要の一巡で売上高全体では小幅な伸びにとどまるが、体制整備が進むソリューションデザイン事業や大手 Sier のお客様先での開発に事業モデルを切り替えた金融・基盤システム事業の売上が収益性の改善を伴って伸びる。

1. 会社概要

2010 年 4 月 1 日に(株)システムプロが、持分法適用会社だったカテナ(株)を吸収合併して誕生。旧(株)システムプロのモバイル端末のほぼ全ての工程に係る技術・ノウハウとオープン系技術、旧カテナ(株)の金融分野の業務知識と基盤系技術を融合した事業展開により新たな領域の開拓を進めている。連結子会社 7 社及び持分法適用会社 3 社と共にグループを形成。

連結子会社	出資比率	事業内容
(株)ProVision	100%	モバイル端末ソフト開発支援、同ソフト・アプリの品質評価、システム運用・保守
東京都ビジネスサービス(株)	51%	データ入力、大量出力等(東京都との共同出資の重度障がい者雇用モデル企業)
(株)GaYa	65%	スマートフォン向けソーシャルゲームの企画・開発・提供、受託開発・開発支援等
(株)IDY	76.7%	各種通信デバイス・通信ソフトウェアの販売、無線通信に関わる各種開発
Systema (THAILAND) Co.,Ltd.	49%	IT 機器販売、IT サポートビジネス及びソリューションの提供
Systema America Inc.(米国)	100%	モバイル及び通信関連の開発・検証支援
Systema Vietnam Co.,Ltd	100%	ソフトウェア開発・検証評価・運用・保守、IT サービス全般
持分法適用会社	出資比率	事業内容
北洋情報システム(株)	25%	システム構築、パッケージソフト開発・販売(北海道を拠点とするニアシア開発)
リトルソフト(株)	20%	クラウド環境対応 Web アプリ「LS クラウド・ウェア」の開発及び「LS クラウド・ウェア」を用いたシステム・インテグレーション・サービスの提供
iSYS Information Technology Co.,Ltd.	35%	モバイル及び金融機関向けシステムを中心としたオフシア開発(中国北京市)

【事業内容】

事業は、ソリューションデザイン事業、金融・基盤システム事業、IT サービス事業、ソリューション営業、クラウド事業、コンシューマサービス事業、及び海外事業に分かれる。尚、ソリューションデザイン事業は 2014 年 4 月 1 日付けで、プロダクトソリューション事業とサービスソリューション事業を統合して新たにセグメントした。

ソリューションデザイン事業

スマホアプリや Web アプリの開発、スマートデバイスを利用したネットビジネスの企画から設計・開発・運用までを一貫してサポートするサービスソリューション事業と、スマホアプリや Web アプリの性能・評価・品質検証、サービスプロバイダー向けのサーバ監視・運用サービス等のクオリティデザイン事業に分かれる。スマートデバイスの開発企業やネットビジネス関連企業に加え、端末開発や Web 関連の開発で培った技術を活かしつつ、情報家電、公共事業、ホームセキュリティ、自動車業界等の非携帯端末分野、更には、エンドユーザの業務システム開発等、幅広くユーザーニーズを取り込んでいく考え。

金融・基盤システム事業

国内外の生・損保や銀行を顧客として、金融系システム開発や基盤システムの開発を行っている。生損保業務では、情報系、契約管理業務、保険料計算、代理店業務から営業管理業務に至るまで幅広い業務ソリューションの開発経験を有し、銀行業務では、メインフレームへの対応はもちろん、オープンシステムの分野においても、営業店系システム及び対外系チャネルシステム等で豊富な開発実績を有する。

IT サービス事業

システムやネットワークの運用・保守・監視、ヘルプデスク・ユーザーサポート、データ入力、大量出力等のITアウトソーシングサービスを手掛ける。顧客は電機メーカ、金融機関、外資系企業、官公庁等。

ソリューション営業

IT プロダクト(サーバ、PC、周辺機器、ソフトウェア)の企業向け販売やシステムインテグレーションを手掛ける。ハード販売型のビジネスからサービス提供型のビジネスへシフトを進めており、IT サービス事業等とも連携して所有から利用(クラウド等)へのニーズの変化に対応する事で事業拡大、高付加価値化を図っている。顧客は電機メーカ、外資系企業。

クラウド事業

クラウド型サービスの導入支援からアプリケーションの提供までを手掛けており、「Google Apps for Business(以下、Google Apps)」と同社が開発した「cloudstep」の組み合わせによるシステナ版グループウェアと一体となったシンプルなクラウドサービスを提供している。「cloudstep」とは、「Google Apps」等のクラウド型サービスの使い勝手を向上させるための業務アプリケーションや運用者向け管理ツール等の総称。現在、パブリック・クラウドに特化しているが、プライベート・クラウドへの対応も進めている。

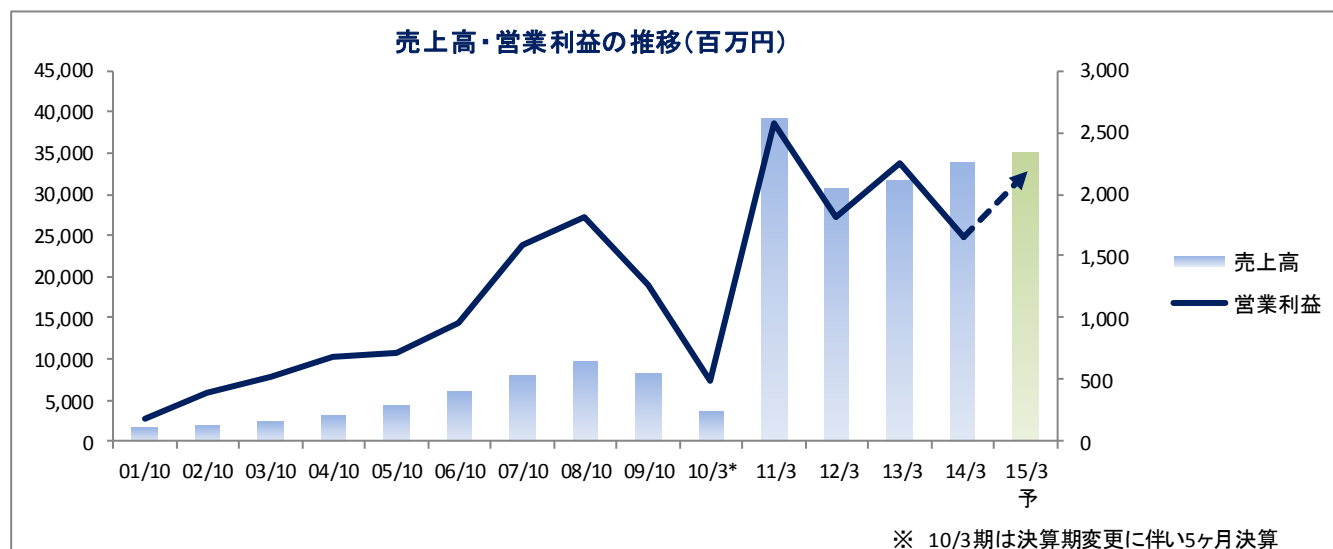
コンシューマサービス事業

連結子会社(株)GaYaを中心に事業を進めている。スマートフォン向けソーシャルゲームの企画・開発・提供、受託開発・開発支援に係る収益がセグメントされている。自社タイトルやエンジンの複数プラットフォームへの展開とPC/スマホの垣根を越えたマルチ対応ゲーム制作に取り組んでいる。

海外事業

タイの現地法人 Systema (THAILAND) Co.,Ltd.及び米国の現地法人 Systema America Inc.の連結子会社2社を中心に事業を進めている。タイの現地法人(バンコク)は、東アジアの成長をシステナグループに取り込むべく、13年4月に設立され、10月に営業を開始した。監視カメラサービス事業とサーバ構築事業が立ち上がっており、14年6月からバンコクグルメサイト「バングル」のサービスを開始した。2年での黒字化を目指している。

一方、米国の現地法人(カリフォルニア州)は13年11月に設立され、14年1月に営業を開始した。①米国に進出した国内大手通信キャリアや米国でデバイス及びサービスを展開するメーカ向けのモバイル及び通信関連の開発・検証支援、②Firefox や TIZEN 等、第3のOSを搭載したスマートデバイスやオートモーティブデバイスの研究開発、及び③SNS ゲームや自社商材コンテンツを利用したスマホアプリの展開等を事業領域とし、最新技術・サービスの動向調査やインキュベーションセンターとしての機能も担っている。



2. 2015年3月期第1四半期決算

(1) 第1四半期(4-6月)連結業績

(単位:百万円)

	14/3期 1Q(4-6月)	構成比	15/3期 1Q(4-6月)	構成比	前年同期比
売上高	7,649	100.0%	8,197	100.0%	+7.2%
売上総利益	1,394	18.2%	1,458	17.8%	+4.6%
販管費	1,118	14.6%	1,062	13.0%	-5.0%
営業利益	275	3.6%	395	4.8%	+43.6%
経常利益	298	3.9%	411	5.0%	+38.0%
四半期純利益	152	2.0%	405	4.9%	+166.9%

※数値には(株)インベストメントブリッジが参考値として算出した数値が含まれており、実際の数値と誤差が生じている場合があります(以下同じ)。

前年同期比 7.2%の増収、同 38.0%の経常増益

売上高は前年同期比7.2%増の81億97百万円。ネット関連の各種ソフトウェアやサービスの開発を中心に主力のソリューションデザイン事業の売上が増加した他、事業部間の連携強化が成果をあげクロスセル(cross-sell)が進んだ事で、金融・基盤システム事業、ITサービス事業、ソリューション営業事業の売上も増加した。

営業利益は同43.6%増の3億95百万円。前年同期にあった大型案件の反動と先行投資の影響からクラウド事業の利益が減少したものの、他のセグメントの利益が揃って増加。中でも、収益性が大きく改善した3事業(金融・基盤システム事業、ITサービス事業、ソリューション営業事業)の寄与が大きかった。四半期純利益が4億05百万円と同166.9%増加したのは税効果会計の影響による。

(2)セグメント別動向

セグメント別売上高・利益

(単位:百万円)

	14/3期 1Q(4-6月)	構成比	15/3期 1Q(4-6月)	構成比	前年同期比
ソリューションデザイン	2,403	31.4%	2,602	31.8%	+8.3%
金融・基盤システム	848	11.1%	936	11.4%	+10.4%
ITサービス	1,077	14.1%	1,157	14.1%	+7.4%
ソリューション営業	3,180	41.6%	3,367	41.1%	+5.9%
クラウド	149	2.0%	101	1.2%	-32.1%
コンシューマサービス	10	0.1%	58	0.7%	+448.2%
海外事業	-	-	6	0.1%	-
調整額	-20	-0.3%	-32	-0.4%	-
連結売上高	7,649	100.0%	8,197	100.0%	+7.2%
ソリューションデザイン	161	58.7%	162	41.0%	+0.3%
金融・基盤システム	41	15.0%	84	21.4%	+105.6%
ITサービス	30	11.0%	51	13.0%	+69.7%
ソリューション営業	40	14.5%	92	23.4%	+130.8%
クラウド	23	8.6%	4	1.1%	-82.2%
コンシューマサービス	-24	-9.0%	12	3.2%	-
海外事業	-1	-0.6%	-15	-4.0%	-
調整額	4	1.8%	3	0.9%	-
連結営業利益	275	100.0%	395	100.0%	+43.6%

※数値には(株)インベストメントブリッジが参考値として算出した数値が含まれており、実際の数値と誤差が生じている場合があります。

ソリューションデザイン事業

売上高26億02百万円(前年同期比8.3%増)、営業利益1億62百万円(同0.3%増)。前期での「プロダクトソリューション事業」と「サービスソリューション事業」を統合して、今期より新たに「ソリューションデザイン事業」としてセグメントした。このため、前年同期の実績は、「プロダクトソリューション事業」と「サービスソリューション事業」を合算したもの。

また、「ソリューションデザイン事業」は、組込み系の開発・検証を含む各種ソフトウェアやサービスの開発を行う「サービスソリューシ

ョン事業」と各種製品やソフトウェア開発のプロジェクト管理・企画・仕様定義・品質管理に携わる「クオリティデザイン事業」の2事業に分かれる。

サービスソリューション事業

売上高17億00百万円、営業利益1億37百万円。各種ソフトウェアやサービスの開発では、通信キャリアのインターネットサービス分野での受注が拡大した他、インターネットを利用したサービス、ゲーム、証券、教育といったネットビジネスの分野の受注も増加した。一方、組込み系では、同社のモバイル端末開発の豊富なノウハウと実績が評価され、情報家電やホームセキュリティ、車載関連の引き合いが増えている。また、セキュアブレイン社と共同開発した同社のオリジナル製品でスマートフォン向け不正送金・フィッシング詐欺対策アプリ「Web Shelter」が売上を伸ばしている。東京スター銀行での採用をきっかけに引き合いが増加し、複数の金融機関で導入が決まったと言う。

クオリティデザイン事業

売上高9億01百万円、営業利益24百万円。スマートデバイスやWebサービスの分野で培った豊富なノウハウと実績を活かして、公共系、サービス系、システム系、ネットワーク系での受注拡大に取り組んでいる。モバイル系では、米国を中心に海外展開を進めており、試験計画・設計のコンサル業務から商品性・ユーザビリティ評価の実施まで幅広く受注活動を行っている。

金融・基盤システム事業

売上高9億36百万円(前年同期比10.4%増)、営業利益84百万円(同105.6%増)。金融システム事業では、各顧客案件の拡充、各ベンダーからの案件横展開、更には成功プロジェクトのノウハウを使った新規案件の獲得に力を入れている。案件の取り込みが進んでおり、下期に複数の大型案件を受注できる見込み。

基盤システム事業においては、ソリューション営業本部と連携した提案活動により受注した大型のシステム更新案件がスタートした。

ITサービス事業

売上高11億57百万円(前年同期比7.4%増)、営業利益51百万円(同69.7%増)。既存顧客のIT戦略のパートナーとして業務範囲を拡大すると共に、新規開拓にも積極的に取り組み、全社のリソースをフルに使った「ALL システナ体制」での「1 クライアント複数サービス」の提案営業を展開している。この一環として、前期から継続して取り組んできた、ソリューション営業本部の豊富な顧客に対するITサービス全般の提案営業が成果をあげており、企業統合対応・OSのアップグレード対応等のスポット案件や社内システムサポートの長期継続案件等、新規受注が増加している。

ソリューション営業

売上高33億67百万円(前年同期比5.9%増)、営業利益92百万円(同130.8%増)。Windows XPのサポート終了に伴うリプレース案件の寄与で売上が増加した。また、金融・基盤システムを中心とした開発部門との連携が成果をあげ、機器販売からインフラ構築、システム開発、保守運用に至るワンストップサービスの商談が複数進行している。

クラウド事業

売上高1億01百万円(前年同期比32.1%減)、営業利益4百万円(同82.2%減)。前年同期に大型案件があった反動で売上が減少する中、営業力強化に向けた先行投資が影響した。もっとも、新規案件獲得と既存契約の更新は順調に進んでおり、特にグループウェアの刷新を目的に「Google Apps」を検討する企業の取り込みが進んでいる。主力取扱商品「Google Apps」と組み合わせて提供する「cloudstep(※)」シリーズの拡充が成果をあげているようだ。

※「cloudstep」とは、「Google Apps」や「Microsoft Office 365」等のクラウドサービスの使い勝手の向上や安全性の向上を目的とした業務アプリケーションや運用者向けの管理ツールを同社独自のソリューションとして展開するサービス群。

コンシューマサービス事業

売上高58百万円(前年同期比448.2%増)、営業利益12百万円(前年同期は営業損失24百万円)。スマートフォン向けゲームコンテンツを開発し、SNSゲームを展開する大手SNSサイトへ提供している他、他社が開発・リリースしたゲームの運営受託も手掛けている。第1四半期は、他社が開発・リリースしたタイトルの運営で売上が増加する中、回収ピークを過ぎた自社タイトルをベトナムへ業務移管する事でコストを削減した。

海外事業

売上高 6 百万円(前年同期は売上計上なし)、営業損失 15 百万円(前年同期は営業損失 1 百万円)。タイと米国で子会社が事業展開しており、タイでは 13 年 10 月に Systema (THAILAND) Co.,Ltd.が、米国では Systema America Inc.が 14 年 1 月に、それぞれ営業を開始した。Systema (THAILAND) Co.,Ltd.は、政情不安もあり、メインビジネスである日系企業向けのクラウド型業務アプリケーションサービスの導入やサーバ環境の再構築等の軌道化が遅れているが、スマートフォン向けモバイルアプリサービスとして 6 月にサービスを開始したバンコク版レストラン検索アプリ「バングル」が人気を博している。ダウンロードが 1,000 を超え、ダウンロードの増加に伴い日系・非日系のレストランからの掲載申込みも増加傾向にあるという。下期からサービス課金を開始する予定だ。

一方、国内大手通信キャリアの米国通信キャリア買収に伴う技術支援と日本企業の米国市場進出に伴う開発・検証支援を手掛ける Systema America Inc.は、設立当初から受注が見込まれた大手通信キャリアとメーカーからの受注はもちろん、他の通信キャリアやメーカーからの受注にも成功しており、順調に推移しているようだ。

(3) 財政状態等

財政状態

(単位:百万円)

	14年3月	14年6月		14年3月	14年6月
現預金	5,235	5,976	仕入債務	3,090	2,846
売上債権	8,465	7,097	未払金・未払費用	988	1,115
たな卸資産	814	959	未払法人税等	28	43
流動資産	15,207	14,924	賞与引当金	689	421
有形固定資産	389	357	借入金	1,914	1,911
無形固定資産	311	248	負債	7,115	6,980
投資その他	4,346	4,448	純資産	13,139	12,998
固定資産	5,047	5,054	負債・純資産合計	20,255	19,979

第 1 四半期末の総資産は前期末に比べて 2 億 76 百万円減の 199 億 79 百万円。期末を越えた事で売上債権・仕入債務が減少した他、配当の支払い等で純資産も減少。この他、季節要因で賞与引当金も減少した。自己資本比率は前期末に比べて 0.3 ポイント改善の 63.7%。

ROE 分析

	10/3 期(5カ月決算)	11/3 期	12/3 期	13/3 期	14/3 期
ROE	5.50%	28.94%	6.58%	9.33%	14.16%
売上高当期純利益率	9.35%	7.55%	2.95%	3.80%	5.29%
総資産回転率	0.43 回	2.38 回	1.32 回	1.51 回	1.69 回
レバレッジ	1.37 倍	1.61 倍	1.69 倍	1.62 倍	1.59 倍

* ROE(自己資本利益率)は「売上高当期純利益率(当期純利益÷売上高)」、「総資産回転率(売上高÷総資産)」、「レバレッジ(総資産÷自己資本、自己資本比率の逆数)」の 3 要素を掛け合わせたものとなる。ROE = 売上高当期純利益率 × 総資産回転率 × レバレッジ

* 上記は決算短信及び有価証券報告書のデータを基に算出しているが、算出に際して必要となる総資産及び自己資本は期中平残(前期末残高と当期末残高の平均)を用いている(決算短信及び有価証券報告書に記載されている自己資本比率は期末残高で算出されているため、その逆数と上記のレバレッジは必ずしも一致しない)。

東証発表の「決算短信集計」によると、東証 1 部、東証 2 部、及びマザーズ上場企業の 14/3 期の ROE は、金融を除く全産業 8.65% (前期は 4.99%)、製造業 8.55%(同 4.53%)、非製造業 8.79%(同 5.67%)。同社は上場企業の平均を上回る ROE を実現している。ただ、14/3 期の ROE の改善は繰延税金資産の計上で当期純利益が前期比 49%強増加した影響が大きい(TIZEN 関連の研究開発投資等で営業利益は同 26%強減少した)。

3. 2015年3月期業績予想

(1) 通期連結業績

(単位:百万円)

	14/3期 実績	構成比	15/3期 予想	構成比	前期比
売上高	33,969	100.0%	35,000	100.0%	+3.0%
営業利益	1,656	4.9%	2,200	6.3%	+32.9%
経常利益	1,746	5.1%	2,217	6.3%	+27.0%
当期純利益	1,797	5.3%	1,369	3.9%	-23.8%

前期比 3.0%の増収、同 27.0%の経常増益予想

Windows XP のサポート終了に伴う PC リプレース需要の一巡によるソリューション営業の売上減少を見込んでいるため、売上高全体では小幅な伸びにとどまるが、体制整備が進むソリューションデザイン事業や事業モデルを切り替えた金融・基盤システム事業の売上が収益性の改善を伴って大きく伸びる。タイ子会社や米国子会社が通期で寄与する海外事業やラインナップの拡充が進むコンシューマサービス事業は共に売上が損益分岐点に達する見込み。配当は 1 株当たり 15 円の期末配当を予定。

(2) セグメント別売上高・利益

(単位:百万円)

	14/3期 実績	構成比	15/3期 予想	構成比	前期比
ソリューションデザイン	9,633	28.4%	11,755	33.6%	+22.0%
金融・基盤システム	3,477	10.2%	4,164	11.9%	+19.7%
IT サービス	4,584	13.5%	5,278	15.1%	+15.1%
ソリューション営業	15,748	46.4%	12,900	36.8%	-18.1%
クラウド	505	1.5%	530	1.5%	+4.9%
コンシューマサービス	119	0.3%	250	0.7%	+108.5%
海外事業	8	0.0%	200	0.6%	+2258.0%
調整額	-107	-0.3%	-77	-0.2%	-
連結売上高	33,969	100.0%	35,000	100.0%	+3.0%
ソリューションデザイン	752	45.4%	1,076	48.9%	+43.0%
金融・基盤システム	253	15.3%	380	17.3%	+49.8%
IT サービス	301	18.2%	380	17.3%	+26.2%
ソリューション営業	373	22.5%	296	13.4%	-20.7%
クラウド	42	2.6%	38	1.7%	-11.1%
コンシューマサービス	-46	-2.8%	30	1.4%	-
海外事業	-45	-2.7%	0	-	-
調整額	25	1.5%	-	-	-
連結営業利益	1,656	100.0%	2,200	100.0%	+32.8%

4. 今後の注目点

上期予想に対する進捗率は、売上高 50.5%(実績ベースの前年同期の進捗率 50%)、営業利益 56.1%(同 46.8%)、経常利益 57.6%(同 47.5%)、と売上・利益共に順調。第1四半期決算は会社側の想定を上回ったものと思われ、15/3期の出だしは順調。ソリューションデザイン事業における組織改編とネットビジネス分野及び自動車関連分野へのシフト、或いは金融・基盤システム事業、IT サービス事業、ソリューション営業事業を中心とした事業部間連携の強化による「1クライアント複数サービス」の推進等、ハードからソフトへの質の転換と安定した経営体質への変革に向けた取り組みが成果をあげている事がその要因だ。

▶ アラート申込み

システムの適時開示情報の他、レポート発行時にメールでお知らせいたします。

▶ 登録データ変更

既にご登録済みの方で、登録内容に変更がある場合や登録解除の方は、こちらよりご変更ください。



ブリッジサロン
公式 twitter アカウト

(株)インベストメントブリッジの発行するブリッジレポートや投資家向け会社説明会の映像情報をつぶやいています。

本レポートは情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を意図するものではありません。また、本レポートに記載されている情報及び見解は当社が公表されたデータに基づいて作成したものです。本レポートに掲載された情報は、当社が信頼できると判断した情報源から入手したのですが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。当該情報や見解の正確性、完全性もしくは妥当性についても保証するものではなく、また責任を負うものではありません。本レポートに関する一切の権利は(株)インベストメントブリッジにあり、本レポートの内容等につきましては今後予告無く変更される場合があります。投資にあたっての決定は、ご自身の判断でなされますようお願い申し上げます。

Copyright(C) 2014 Investment Bridge Co.,Ltd. All Rights Reserved.

ブリッジレポート(システム:2317)のバックナンバー及びブリッジサロン(IRセミナー)の内容は、www.bridge-salon.jp/ でご覧になれます。